

京都府子育て支援審議会・京都府少子化対策審議会
京都版母子健康手帳の作成に関する検討会（第3回）
議事概要

- ◆日 時： 令和4年10月17日（月） 15時～17時10分
- ◆場 所： オンライン
- ◆出席者： 委員 別添名簿のとおり

1 開会

2 議事

- (1) 「パパの育児が世界を救う?!～男性から見た子育てと支援～」[資料2]
(大阪教育大学教育学部教授/NPO 法人ファザーリング・ジャパン顧問 小崎恭弘 委員)
- (2) 「産後ケア×母子手帳」[資料3]
(ONE DROP（産後ケア施設 ベビマム）代表 岩見香織 委員)

[委員意見]

(男性の役割等について)

- 府内の男性育休取得率は、正規職員30～300人の企業でR3男性14.2%、女性100%。企業によっても取組状況が違うので、周知は重要。
- 健診等への父親の参加はかなり増えてきているが、主体性・当事者感はまちまち。
- 父親の参加が「分業制」「分担制」になりがちなので、こどもとはどういうものかという基本的な理解と、両親それぞれに役割があり一緒に関わることが重要だという認識を持ってもらうためのツールとして母子手帳が活用できないか。

(産後ケア事業関係)

- 行政として周知に取り組んでいるがまだまだ利用率は低い。
- 必要な人に必要なだけの支援が着実にできるようにするため、母子手帳にクーポンを挟み込むなどして全員の目に触れるようなやり方が効果的ではないか。
- 子育て施策全体の中での財源の再配分も含めて、財源が必要。
- 民間での受け皿の整備や、産後ケア単体ではなく地域全体の子育て環境の整備を進め、母子手帳でそれが伝えられるようにすべき。その際、現行の母子手帳はすでに情報量が多いので、オンラインの併用などでスリム化を図るべき。

(総括)

- 官民を挙げて受け皿を整え、助けてほしいというサインが出しやすい環境を作ることと考えていかなければならない。

- (3) 厚生労働省「母子健康手帳、母子保健情報等に関する検討会」の状況 [資料4]
(事務局)

3 その他

4 閉会

(以上)